
クリスマス・ナイト

快丈風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クリスマス・ナイト

【Nコード】

N3181A

【作者名】

快丈風

【あらすじ】

最悪のクリスマスの日に私が出会ったのは、最高のアナタの笑顔でした。

「信じられないっ！サイテー！！」

バンッ！と喫茶店のテーブルを叩く女。

その前に座っている男は特に動揺するでもなく、ふてぶてしい顔をして彼女を見ない。

彼女はそれを見て余計に腹が立ったのか、テーブルの上のコップの水を男に勢いよくかけ、振り向かずに店を出た。

後ろから男の怒鳴り声、周りからは驚いた顔や冷たい視線……。彼女はそれらを全て無視した。

彼女は教会へ行った。

彼女の両親はカトリックで、彼女も小さい時から毎週日曜日に教会へ通っていた。なのでこんな時は神様の側に居たいと思った。

夜更けの教会はなぜか鍵がかかっていなかった。いつもは厳重に管理しているハズだが……。

彼女は一番前の席に座り、ステンドグラスを眺めた。

月明かりに照らされ、夜だというのにステンドグラスはとてもよく見える。

それを見ていると涙があふれてきた。

今まで、彼女はずっとさっきの男に尽してきた。……それなのに……

…！

そう思えば思うほど、涙は止まらない。

むなしくて……でもどうしようもないもどかしさで、更に彼女は泣いた。

ガチャッ

その時、教会のドアが開いた。

「誰か、いるんデスカ？」

若い男の声。

反射的に彼女は泣き止む。

コツ、コツ、コツ……

静かな教会は、足音がよく響く。
だんだん足音は近づいてくる。

……コツツ……………。

足音がとまる。

彼女は顔をあげた。そこには、サラサラとした金髪で神父の格好をした外国人が立っていた。

彼は彼女を見る。

「泣いているんデスカ？」

片言の日本語。

「違い……ます……」

不意打ちをくらった彼女はキチンと答えられない。

「でも、アナタ泣いてる。涙がでてマス」

心配そうに近寄る金髪の神父。

ドキツとする……。

「大丈夫です……それより、アナタは誰ですか？」

目をそらし、話題を自分から遠ざけようとする彼女。

「オウ！失礼シマシタ！わたしはキース。キース・エレオントといマス。教会の鍵を閉め忘れて閉めに来マシタ。アナタは？」

やわらかい笑顔で言うキース。

「私は……山野辺美雪です」

少しオドオドしながら言う私。

「ミユキですネ！カワイイ名前デス！でも、泣いてたらもったいないデス。アナタ、笑顔の方が素敵デス！」

何の抵抗もなく、ニコニコしながら言うキース。

「……私、笑える気分じゃないの」

美雪はため息混じりに言った。

「ナゼですか？今日はクリスマスですヨ！」

無邪気に笑うキース。

「そうね。神がお生まれになった日だね。……でもね、私はさつき恋人と別れたの」

美雪はそう言いながらうつ向いた。

その様子を見たキースは、さつきよりしんみりとした声で言った。

「彼のこと、愛していたンデスネ、ミユキ」

「愛してたのかな……一方的過ぎたのかも。私以外にも3人恋人いたの、その人」

「ミュキは愛してマシタ。だから泣いてたんでしょ」
「そうなのかな……」

不思議だ。

さっきまで忘れ去りたい程に忌まわしかった事を、平気で口にしてる。

キースになら、言える。

キースだから、言えた？

「神様はちゃんと見ておられマス。ミュキのことも」

キースは美雪に向き合って続けた。

「クリスマスには笑顔がたくさん。でも、泣いてる人は少ない。だから、神様は他の人よりもミュキを氣にとめて下さいマス」

「キース……」

「だから、安心して下サイ！ミュキの事、神様はもうご存じデス！神様も心配されマス！ミュキは笑顔になって下サイ！」

キースは一生懸命に言う。

「……そうね。そうだね、ありがとう、キース。元氣が出た」
思わず笑顔になる。

「ア、ミュキ、笑いマシタ！やっぱり笑顔がキュートなんですネ！」

「……やめてよ、キース……照れるよ……」

「そうデスカ？」

不思議そうなキース。

「……私、もう帰る。だいぶ落ち着いたし」

「それは良かった！そうするがとっても良いですヨ」
相変わらず片言のキース。

「うん、ありがとね、キース」

立ち上がり、ドアを目指す私。

ふと、気になって聞いた。

「ねえ、キースは神父さま？今日の礼拝には居なかったよね？」

「おとといからこちらに来まシタ。でも、今日は用事があつて出られまセンデシタ。来週からは出マス！」

「そう……私、毎週来てるの。だから、また来週会いましょうね！」

「それは楽しみデス！また来週デス！グッバイ、ミユキ！」

教会を出た私は、心が暖かった。

今日は失恋したハズなのに、心がポカポカしている。
きつとキースのおかげだ……。

そんなことを思いながら、美雪は家に帰った。

美雪は来週、礼拝が面倒で確か礼拝の時間に友達と遊ぶ約束をしていたけどキャンセルすることにした。

それはもちろん、来週の日曜日にまた心が暖かくなる笑顔が見たい
と思ったからだ。

（後書き）

いかがでしたでしょうか？ほのぼのした話が書きたくて今回の話を思い付きました。ちなみに今年のクリスマスは本文どおり日曜です（笑）

キースの片言な日本語は、留学生の私の友達が実際に話す日本語をモデルにしました

ではまたお会い出来る日を楽しみにしています！それでは！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3181a/>

クリスマス・ナイト

2010年10月28日08時03分発行